

ジョージア (グルジア) 便り その42

## 『バレエダンサー輩出国としてのジョージア』

文 高野陽年 text by Yonen Takano

日本のバレエ人口は推定40万人いると言われている。バレエ教室は1万箇所を超え、今や貸衣装屋やバレエ洋品店は都内の一等地に巨大な自社ビルを持つほど大きなマーケットが存在する。較べてジョージアはどうだろう。大きく見積もっても小さな子供からプロフェッショナルを合わせて1000人程度の規模で、バレエ洋品店はトビリシに2店舗有る限りである。そもそも国の総人口が400万人であるし、地元で絶大な人気を誇る、民族舞踊にダンス人口が流れがちである。

しかしバレエの歴史を遡ってみると、ジョージア人がバレエシーンへ与えた影響力の方が圧倒的に大きい。たとえばジョージ・バランシンはアメリカへ渡り近代バレエを確立して、近年盛んなコンテンポラリーバレエへの橋渡し役となった。ヴァアフタング・チャブキアーニは圧倒的に女性主体であったバレエを男性ダンサーにもスポットライ

トが当たるよう、踊りの大改革を果たした。今日僕がこうして踊る機会を得ているのもひとえにチャブキアーニのおかげであろう。他にも今日世界最高のバレエ学校の代表を務めるツイスカリーゼやアナニアシヴィリなど世界的スターが続々と現れている。もちろん日本においてバレエが普及したのは20世紀後半になってからであるが、人口比率を考えるといかにジョージア人がバレエに適しているかわかるだろう。もちろんかつてのソ連邦では大変バレエに力を入れていたというアドヴァンテージがあるが、他の旧構成国よりもジョージアは特別目立つ存在であることも事実だ。

日本人は手先が器用だというステレオタイプがあるのならば、ジョージア人は踊りに秀でている民族である。

つい最近のニュースでトビリシ近くの遺跡からワインを保存した壺が発見されたというものがあつた。その壺は

なんと8千年前のもので世界最古のワイン造りの形跡のようだ。驚くべきことに壺には家畜の糞とともにダンスをする人々の図柄が彫られていた。要するにジョージアの民は8千年も前からダンスを生きていく上で大切な行いの一つと考え、踊り続けてきたのだろう。

8千年の踊りの歴史は、ジョージア人の血に流れていることは間違いなく、これからも優れたダンサーを輩出し続けるだろう。

## Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

